



2015年8月27日

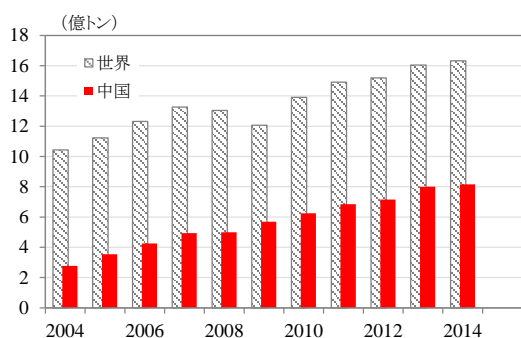
鉄から見る世界経済

公益財団法人 国際通貨研究所
経済調査部 上席研究員 森川 央

中国発の株価乱高下が金融市場の動揺を誘っている。当局による買い支えや金融緩和により沈静化が図られているが、依然として市場は不安定である。問題の本質は、過剰設備であり、これは金融緩和が一朝一夕に解決できるわけでないからだ。この問題を鉄鋼生産の現場から見てみよう。

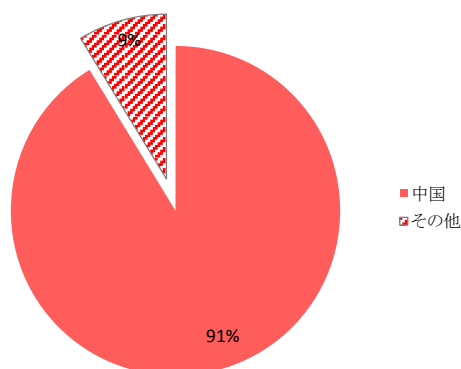
世界全体の鉄（粗鋼）の生産量は、2014年16.3億トンであった。これは10年前（2004年10.4億トン）の約1.6倍になっている。増加した総量は5.9億トンだが、このうち中国による増加分は5.4億トン、実に9割に及ぶ。この10年はほぼ中国でのみ供給力が積み増されたと考えてよい。

図1. 世界の鉄鋼生産量



(注) 2015年は1-6月期を年率換算
(資料) Thomson Reuters

図2. 過去10年間の増加内訳



(資料) Thomson Reuters

もちろん一方で中国国内の需要も急増した。2004年の国内需要は2.8億トン前後であったが、2013年には7.4億トンに達した後、2014年にはやや減少し7.1億トンになった。しかし、2014年の中国の生産量は8.2億トンであり、1億トン強の需給ギャップが生まれている（次頁図3）。これは日本の年間生産量（1.1億トン、2014年）に匹敵する量だ。

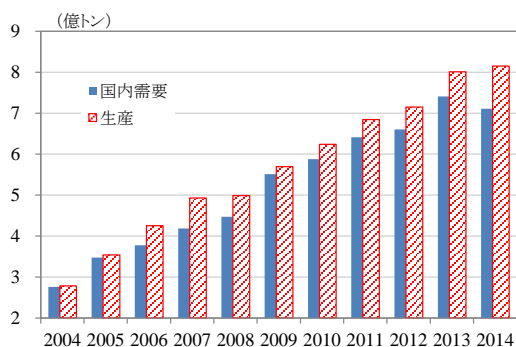
この余剰が輸出市場に流れてきている。中国の鉄製品輸出量は2013年の0.6億トンから2014年には0.9億トンに増加、2015年1-6月期は0.52億トンになっており通年では1億トンを超えてくる可能性がある（図4）。

中国国内の鉄鋼価格（棒鋼や板、H型鋼などの総合指数）は現在、トン当たり2300元前後となっており、これは今世紀に入ってから最低の水準とってよい。

鉄に限らず、銅も石油も価格が下落しているが、いずれも背景にあるのは過剰設備である。

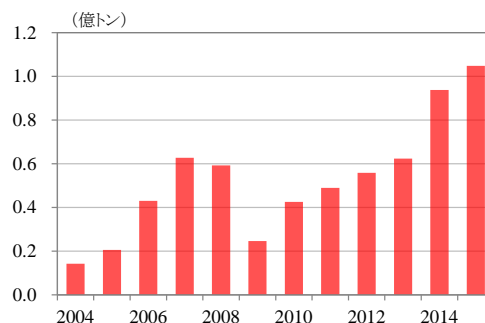
そして、世界的な過剰設備の解消には時間がかかる。資源ブームの後には長い資源価格低迷期が続くという歴史の繰り返しが、今回も現実味を帯びてきている。

図3. 中国の鉄鋼需給



(資料) Thomson Reuters

図4. 中国の鉄鋼輸出量



(注)2015年は1-6月期を年率換算
(資料) Thomson Reuters

図5. 鉄鋼価格(総合)



(資料) Thomson Reuters

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいませよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。